

恭仁の都の旧地は瓶原の西、鹿背山のほとりなり。〔聖武帝御宇天平十二年十二月、橘諸兄公此地を経回せしめ、

其後始て宮城を造り、帝行幸し給ふ。賀世山の西の道より東を左京とし西を右京とせしよし、続日本紀に見えたり〕

新 勅  みかのはら久迹の都はあれにけり大宮人のうつりいぬれば  読人しらず

新 拾  吹風にむかしをのみや忍ぶらんくにの都に残るたち花  土御門院

新 続古  泉河いつより人のすみ絶てくにの都はあれはじめけん  兼  氏